

# Fグルーブ会報

第八号

フェリス女学院短期大学  
音楽科同窓会

六月十日発行

## 卒業生の皆さんへ

三宅 洋一郎

フェリスに音楽科が生れて、今年で三十二年。音楽科の歴史と共に、歩み続けてきた私たちが、今ふり返ってみると、それほど長い道程であつたようにも感じません。記憶のなかに数々の思い出が甦ってきます。辛かったこと、苦しかったことも幾度かありましたが、やはり楽しかった思ひだけが、心のなかに生きています。

昨年の秋、思いがけずも神奈川文化賞を受賞したのは、音楽科のために惜しみなく協力して下さった多くの先生がた、また、数はすくなくとも、精いっぱい頑張りが続けた卒業生たちの一人一人の実績による賜物と信じています。皆さんで催して下さった受賞祝賀会は、長い間フェリス音楽科のなかに培われた空気をそのまま具現した和や

かな集りで、大変に嬉しい思いでした。その折、皆様から賜わった心暖まるご厚情に対し、この紙上を借り、厚く御礼を申し上げます。皆さんのなかにある音楽のこころを、いつまでも大切に育んで頂きたいと願うと同時に、これから先もフェリス音楽科が、日本のなかばかりでなく、世界のなかでもユニークな存在として、ますます健やかに成長して貰いたいと願わずにはいられません。



〈手塚敏子先生より記念品を贈られる両先生〉

## 受賞パーティー

華やかに行われる

昨年、昭和五十三年の秋、三宅洋一郎先生、春恵先生御夫妻が、神奈川文化賞を受賞されたニュースは、同窓生の方々にはすでにひろく御承知の事と思ひます。三十年にわたる横浜、フェリスでの音楽教育に貢献されたことによるこの度の受賞は、私共フェリス音楽科に連なる者にとつて、この上ない喜びであり、誇りでもあります。

暖冬のうらかな十二月七日、横浜高島屋の新らしくオープンした、ローズルームにおいて、受賞祝賀パーティーが、華やかに、そして、なごやかにひらかれました。永年にわたつて音楽教育の向上、充実、後進の育成につくされた御夫妻の軌跡を示すように、参会者は、古い方、新しい方、肩を寄せあうように多数集まり、さながらフェリス三十年の歩みを、目のあたりにするようでした。集まった方々を紹介しますと、短期大学音楽科。音楽科同窓会「Fグルーブ」。はじめはフェリスの名前を頭につけて発足し、発展につれて名称が變つて現在に至っている日本女性合唱団、そして山手音楽教室。どちらも、今年二十五周年をむかえ、記念行事をひかえている、いわば力強い外堀と云えましょう。

「こうしてお二人が金びよう風の前にならんでおられると×十年前のお二人の結婚式を思い出します」という倉長治子先生の言葉で司会が始まり、

祝賀会がすすみます。

宮本院長——「三宅洋一郎・春恵先生御夫妻の存在そのものがフェリスの顔であり、何の宣伝もしなくとも、世にフェリス音楽科あり、と知らしめていく」——石井理事長——「何をおいても、



〈中田喜直先生のスピーチに会場大笑い〉

今日、心からお喜びを申し上げたい。特に若き日からのあこがれの春恵先生に——と云うような、心あたたまる、笑いをさそうスピーチで始まり、続いて、佐藤短大学長より「三宅先生御夫妻

が高い理想と、音楽へのあふれる情熱をかたむけてこられたこの音楽科をますます質の高いユニークな音楽教育の場にして行くつもりです。」との力強い言葉がありました。それにこたえて、洋一郎先生、春恵先生から、それぞれ、来し方をふり返り、胸のじんとあつくなるようなお話がありました。したが、これについては、同時発行予定の白菊会「たより」にお二人のインタビュー記事が載せられますので、そちらをお読みいただきたいと思えます。続いて、先にあげた四つの団体より記念品の贈呈があり、すっかり気分もほぐれたところへ、中田喜直先生の爆笑をかうスピーチの登場で会場は笑いのうずとなりました。「去年、横浜文化賞を受賞して、やっと三宅先生に追いついたと思ったら、今度は又神奈川文化賞をお受けになられた。ボクもまげずに……」等々、とぼけた味のスピーチをお伝え出来ないのが残念です。最後に、「すぐれた後進を育て……」の受賞理由の一つに対応する、田中科长より、「戦後、春恵先生のレッスンに伺ったらうら庭でお芋の苗を植えておられて、一しよに手伝わされました」と云うような、きのう今日のつきあいでない、フェリスのしっかりした一本の線を感じさせるスピーチによってしめくられました。

会場には、明るい笑いやさざめきがいままでも続き、かっつの先生や生徒、なつかしい先輩、事務所でお世話になった誰れかが、楽しそうにおしゃべりする様子があちこちに見られました。

(熊本記)

### 日本女声合唱団 定期演奏会

——二十五周年を記念して——

□九月十九日(水)七時

都市センターホール

指揮 三宅洋一郎

ピアノ 三浦洋一

ピアノ 熊本美也子

中田喜直 ちいさな果樹園

ブラームス 愛の歌 作品五二より

萩原英彦 花さまざま(初演)

他

### 三宅春恵 日本歌曲の夕

ピアノ 三宅洋一郎

10月19日(金) 福岡・郵便貯金ホール

23日(火) 名古屋・中電ホール

27日(土) 横浜・神奈川県民小ホール

中田喜直・團伊玖磨作曲による歌曲の夕

### 久保 浩 ☆ライナー・ホフマン

#### 二台のピアノの夕

五十四年十月二十三日(火)

第一生命ホール 七時

ハ曲 目

ラ ベ ル スペイン狂詩曲

ラ フ マ ニ ヲ フ 組曲第二番 Op.17

入 野 義 朗 二台のピアノのための

音楽 他

# 初期のベートーヴェン

佐藤 馨

わたしがはじめてフェリスにやってきた頃は若かったので、その頃学生だった方は、いまだにわたしを若いと思っているかもしれないので、あまり年寄りじみたことはいいたくはないが、年とともにわかってくることもあるものだ。

ここ何年か音楽史はハロマン派Vを担当しているので、ベートーヴェンについて考え直したり感じたりすることがあるのだが、たとえばこの頃、作品三十一までの初期から中期への過渡的時代のピアノ・ソナタのところどころに、ハッと目まいを覚

えるようなロマンティズムを感じることもある。若い頃には、中期の作品の造形的完全性とか演奏効果、後期の冥想的性格（それが結局作曲家が目指したものであったが）と比較すると、初期の作品は全体としてなにかまとまりのない気まぐれのように見え、実際に多くの音楽学の認識もそうであったし、いまでもやはりそういう認識が多く、そのことはベートーヴェン初期のロマンティズムの価値を低めているように思う。

音楽のロマン主義は、その留まる処を放棄するような放浪性や気まぐれによって、もともと若者にふさわしい表現なのだが、あの貴族社会の趣味の重さのなかで、自分のロマン主義をいろいろ屈折した表現で刻み込んでいった若いベートーヴェンの作品のこの面に、もっと注目してもよいと思われるが、それらの痕跡のひとつひとつに、現実的なロマンティズムの美しさを覚えるのは、これも年のせいかな、あるいはまだ若いせいかと考えたりする。

## うつくしく 年をとるということ

田 中 順

声乐のレッスンには鏡を欠かすことができません。口や目は勿論のこと身体全体のポーズを見ながら練習をします。鏡にうつる自分の姿は一番の先生といえます。よい顔で余裕のある自然な安定した姿の時はよい声が出るのです。若くつややかな生徒と鏡の中で並んでいる私を眺めながら、やれやれ年をとったなあと思うこのごろです。さて、私はよい顔をしているのかな、うつくしい顔になる、これは年をとるほどにまことにむずかしく思われます。

昨夏、モーツァルトウムでリントパーク教授の講座の聴講をしました。八十才を越えておられるとききましたが、小柄な美しい白髪の実に品格のある婦人で、「私はこう思うがお前の考えはどうか」とその輝いた青い瞳、歯切れのよい静かな話しかた、確信に満ちた適切な言葉で孫のような学生達の教場一杯に、敵しい中にも機智に富んだ暖かさや活気があふれました。フェリスにはこの四月から浅野千鶴子先生がお教え下さっています。学生時代には先生のフランス歌曲のリサイタルに随分とかよったもので澄明な暖かい歌声を忘れません。生きいきとした話のなさりよう、慎ましいお人柄は音楽科に新しい風を吹きこんで下さいました。うつくしく年をとった人、その人がそこにいるというところでそこは、高い品性から生れる叡知と包容力の息吹がみなぎるのです。「他人のため」に「フェリスの標語はもちろん信仰的に深い意味がありましようが、うつくしく年をとるということはこのことばに大きな関わりがあるような気が

## 愛 す る

大 島 君 子

します。この聖句の前後につきのようにな書かれています。「何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれたものとしなさい。――すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。――それはあなたがたが純真なものとなるため」であり、そういう人は私達の間で星のようにこの世に輝くのです。

Aさんは若い頃、フランスの俳優ジェラルド・フィリップに憧れてフランス語に熱中し、だんだんフランスそのものを愛するようになって、とうとうフランスに住みつきました。Nさんは自分の子供の才能を愛し、自分の生活を犠牲にしてすべてをその子供の才能に賭けています。Sさんは美味しい料理を愛し、どこそこの何が美味しいと聞けば遠路厭わず食べに出かけ、それを楽しみに張切って働いています。Tさんは自分の美貌を愛し、美しくあることの為に全力を投じています。Kさんは神を愛し、牧師と結婚して生涯を神に捧げようとしています。人は一生の間に、様々な愛を様々な形で愛し、その愛によって生きています。愛する心の豊かな人程、豊かな人生を送っている気がします。そしてその愛の次元が高い程、幸福である気がします。私達の愛している音楽は、そうした意味で、美しい形で愛し合える理想的な恋人であるに違いありません。うれしいにつけ、悲しいにつけて語りかけてくれるモーツァルトの慰め、シューベルトの涙、ベートーヴェンの励ましを思い、音楽と愛を大切にしたいと思うのです。

## い 会 出 子 順 本 杉 昭和51年専攻科修了

赤い市電が、町のあちこちを結び、その市電に、一時間も乗れば、市内の端から端まで行くことができな町です。ウィーンは、そんな小さな町です。私の生活も、ここに来て約九ヶ月近くになります。私がウィーンで出会った事について少々書いてみたいと思います。

今、私は、アカデミーでピアノを専攻していますが、レッスンは、週に一回で他に、必修科目として、聴音、楽典、楽器学と、週に二回のドイツ語の授業を受けています。時間的には、かなり忙しく夜の音楽会に行く時間を含めると、一週間が、あつと言う間に過ぎてしまいます。授業として、特に興味深いのは、楽典で、とても、論理的で、今、教会旋法について、勉強していますが、やはりこちらでは、音楽と教会とのつながりが深いせいでしょうか、重要な項目になっている様です。この事は、学校の授業だけではなく、町の教会で開かれる数々のオルガンのコンサートや、クリスマス・イブに偶然聞いたミサにも現われていてそこでは、音楽だけが何か特別な扱いを受ける物ではなく、神があり、人々の生活がありその中に音楽がとけ込んでいるのです。

私のピアノの先生は、「人の演奏を聞く様にとおっしゃって他の生徒のレッスンの聴講を勧められますが、演奏を聞く事もとても勉強になります。また、レッスンだけではなく、校内のクラス・アーベントや、オペラやその他の音楽会の中でも、色々の出会いがあって、それによって受ける影響は大きいと思います、

それから、もう一つ。ウィーンにある沢山の

公園の中には、Haydn, Mozart, Beethoven, Schubert, Strauss この町で活躍した多くの作曲家の像があります。

又それらの作曲家達が、実際に生活していた家や、彼らによって書かれた手紙などに会った時、今まで、楽譜の中だけで感じていた物とは、違う何かを発見する事ができます。

ある時は、急に身近かに思えたり、又、ある時は、遠くにかすんでしまい、失望したり、その時の自分に受け入れられる範囲での結果になります。もし音楽と言う空間があったならば、その接し方は無限にあると思います。私は、それらの出会いをこれからも大切にして、前に進んで行きたいと思えます。

## リサイタルのぞんで

和 泉 粧 子

五十三年度研究科作曲専攻

しーんと静まり返ったホールに、私が少しずつ書き綴っていった音が形となって流れていきま。僅か十分足らずの時間ではあるけれど、私の曲に同時に演奏者と私と、そして多勢の聴衆とがかかわっているということが、大変な重圧となって私の身にふりかかって来るのです。それをステージの袖で祈るような心持で聴いていると――

いったい何をどう書いたら良いものか？――などと、この作品の影も形もなかった頃から、先生をホトホト困らせながら、それでも少しずつおたまじゃくしは生まれていき、やっと譜面が出来、そ

れが音に変わっていった、それまでの道のりが思い出されます。ああでもないこうでもない、いろいろなことを考え試してみながら、付け加えたり削ったり、作品の誕生までに費してきた時間は、その時は私だけのもので、無責任に流れていった時間が、凝縮され、十分間の作品となって私以外の人の前に姿を現わした時、改めて、もしかしたらとんでもなく下手に時間を使ったのではないか、もつと効果的な書き方があったのではないか、他にやるべき事は山ほどあったのではないかと反省することばかりなのです。そして私はなんて恐ろしいことをやり始めたのだろうと、自分でも驚いてしまう有様です。その驚きというよりも、むしろ不安は、演奏されている一曲にとどまらず、フェリスにおける四年間、そしてさらにさかのぼって、音楽に接し始めた頃の事にまでひろがっていきます。

幸せなことに、本当に良い先生方にめぐり逢い、教えを受けてきたうちに、この頃やっと少し、作曲とはどのようにしたら良いのがわかりかけてきたような気がします。そして少しわかりかけていくのと同時に、本当に自分は何も知らないんだということが益々良くわかっていくのです。

人生のうちで、若い最も貴重な時を、このような手ごたえのある世界に身を置き学べる事を幸せだと思い、そしてこの華やかなステージとその雰囲気甘んじてはいけないうんだと背筋がピンと伸びる思いがするのです。

私がかかっていた十分間の世界も過ぎてゆき、おつき合いたいだいたみなさんからの拍手を浴びる時が、やはり一番うれしい瞬間です。

――ああ、やってきて良かった、恐ろしい事だけどもまた書き続けよう。――

# 教務より

久保 浩

昭和五十四年度も二ヶ月が経ち、七月の前期定期試験、実技試験が近づいてきました。七月はその他に、集中講義、研修旅行、夏期受験講習会が予定されています。さて、今年度の新しい講座について触れますと、歌唱イタリア語（林廣子講師）、歌唱フランス語（立木樹子講師）、弦楽アンサンブル（神戸愉樹美講師）等が開設されました。従来から開講している科目で新任の先生が担当される講座として、音楽教育概論（佐野和彦講師）管楽アンサンブル（大竹尚之講師）声楽作品研究Ⅰ（ライナー・ホフマン講師）等、又合唱に桑原妙子講師、声楽部門に浅野千鶴子講師、ピアノ部門に二宮純子講師が新しく加わりました。神戸・二宮・桑原各講師は本学音楽科の卒業生です。この様に音楽科専門科目も数多く開設され、より充実した授業編成になったと言えます。

春のさわやかな日にレッスン室、講師控室から見る外の景色は素晴らしく、港が緑の中に映る中で、音楽をするには、本当に良い環境であると感じると同時に、学生がこの中で先生方と人間的な触れあいを大切に、各人の旺盛な意欲と創造性をもって、大いに青春を味わいながら成長してほしいと思う昨今です。そしてそのことの為に、教務は力を注いでいきたいと思えます。

（教務部長）

## 研修会予告

昨年は橋本英二氏に演奏をまじえながら「バロック音楽」について御講演いただき、大変好評でした。今年も「古典派の音楽」の予定でございましたが、多くの方々御要望もありましたので、もう一年橋本先生に、「バッハについて」の御講演をお願いすることにいたしました。

又、バッハの作品を中心とした橋本先生のチェンバロ リサイタルも開催されます。多数御来会下さいます様、御案内申し上げます。

橋本英二氏は、東京生れ、東京芸大オルガン科を卒業後渡米、オルガンをフライシャーに、その後チェンバロをカークパトリックに師事、現在はシンシナティ大学音楽学校のチェンバロ教授の傍ら、国際的に活発な演奏活動を続けられ、世界各地で絶賛を博されています。又、フェリス音楽科の講師でもいらっしやいます。

○バッハについて 講師 橋本 英二氏  
日 時 七月十四日（土） 十六日（月）  
午前十時～十二時半 フェリス音楽科  
五～四一教室

○チェンバロ リサイタル  
日 時 七月二十二日（日） 午後二時開演  
フェリス音楽科五～四一教室  
曲 目 バッハ イギリス組曲より

平均律曲集より 他  
会費 講演 二回券 会員 二、〇〇〇円  
一般 三、〇〇〇円

一回券 会員 一、五〇〇円 一般 二、〇〇〇円  
学生 五〇〇円

リサイタル 会員 一、五〇〇円 学生 一、〇〇〇円  
一般 二、〇〇〇円

## 西南支部より

田村 淑子

昨年三月、西南支部が発足し、早や一年が過ぎました。

昨年は雨が少なく、五月から時間給水がつづき、今年三月解除になった時は、ほっとしました。「喉もと過ぎれば」の言葉通り、最近では節水すら忘れがちで、慣れの恐ろしさを感じます。昨年度の、活動報告にうつります。

同窓会主催の初仕事として、七月二十九日にヘルムート・ドイチェ氏を招き、吉田雅子さんの通訳により、シューマンの歌曲「女の愛と生涯」についてと題し講演会を開催しました。

暖かい雰囲気、有意義な時を過ごし、学生の頃に戻った気分でした。その頃より、ずっと熱心に耳を傾けていたようです。

一番気掛かりな収支は、当日欠席の方々も、多数負担して下さい、赤字にならず役員一同肩の荷が降りました。皆様の御協力に対し、感謝致します。一般公開にしたため、会員以外の出席もありながら、会員の出席が少なく、大変残念に思いました。そのような会の持ち方の難かしさを痛感しました。

その他、同窓生による音楽会は、十一月二十五日江口元子（四回卒）先生の会があり、盛況でした。今年になり、吉野智寿子さん（二十回卒）が、三宅春恵先生の主催していらっしやる、バッハ協会でお演じされました。福岡県外の様子は、はっきりしませんので、御活躍の様子が、落ちていましたらお赦し下さい。

本年の同窓会は、七月一日、福岡の都ホテルに於て致します。多数の出席者と語り合いたいと思しみに致しております。

# Fグループ後援演奏会

(一九七八・七月～一九七九・十月)

## ◎高梨美知子メツオソプラノリサイタル

一九七九年一月六日 東京文化会館小ホール  
 第十一回の卒業生で一九六六年に渡欧し、ベルリン国立音楽大学を卒業。現在はベルリンに居を構え、演奏活動を続ける一方、一九七五年よりベルリン国立芸術大学の声楽科講師として指導にもあたっている高梨さんの一時帰国してのリサイタル。

## ◎Fグループ 新人演奏会

五月十四日(月) 六時半 神奈川県民小ホール  
 この春、研究科を出られたソプラノの鎌田由美さん。ピアノ伴奏は安藤友侯先生。ピアノの赤柴容子さん。作曲の和泉粧子さんの作品発表。それに第二十四回卒で四年間のフランス留学をおえられ昨秋帰国された二宮純子さんのピアノでフォーレ、ドビュッシーを。二宮さんはパリ国立音楽院のピアノ科、室内楽科を一等賞で卒業、現在は、フェリス音楽科の講師をされています。

## ◎三つのピアノ協奏曲

六月二十六日(火) 六時四十五分

### 神奈川県立音楽堂

三宅洋一郎先生企画による第三回目の協奏曲の夕べ。モーツァルト・シューマンのピアノ協奏曲とサン・サーンスの「動物の謝肉祭」を第二十七回卒の鈴木みどりさん、第二十三回卒の久保田裕子さん、それに現在、音楽科教授の山岡優子先生、二年程前まで講師でいらした加藤伸佳先生のピアノで、オーケストラはNHK交響楽団メンバー、指揮は新進気鋭の井上道義氏。

## ◎連弾のたのしみ

七月二十日(金) 七時 第一生命ホール

第十七回卒で現在は音楽科の講師として後進の指導にもあたっている熊本美也子さんとヘルムート・ドイチ氏による連弾の演奏会。ペートーヴェン、シューベルト、ビゼー、ドボルザークといった多種多様な連弾曲を、弾き手も、聴き手も楽しく味わおうという演奏会。

## ◎大島君子・西野真利子ジョイントリサイタル

九月二十六日(水) 六時半 熊本郵便貯金会館

現在熊本で後進の指導にあたっている第二十五回卒の西野さんの歌と、大島君子先生のピアノ、それに第九回卒で現在音楽科の講師としてソルフェージュの指導にあたっている中島恭子さんの賛助出演で、西野さんとのデュエット。ピアノ伴奏を受け持つのは第四回卒で同じくソルフェージュ教育で母校で活躍されている金子良子さん。

## 山手音楽教室の御案内

幼稚科 (満4才以上)  
 音楽科 (高3以上)  
 受験科 (ピアノ・ヴァイオリン・チェロ)

本教室 毎土曜日午後 4月第一土曜日 } 受付  
 10月第一土曜日 }  
 分室 毎月曜日午後 4月第一月曜日 } 受付  
 10月第一月曜日 }

同窓生の二世達も大勢いらしています。いつでも見学にいらして下さい。入室案内御希望の方は御連絡下さいお送りします。

横浜市中区山手町52-1 〒231  
 フェリス短大音楽科内 Tel. (641) 0 2 4 5

## ◎Fグループジョイントリサイタル

十月五日(金) 七時 名古屋中電ホール

名古屋、中部地方在中の方々によるジョイントリサイタル。第十四回卒の峰沢嗣子さんのピアノ、第十九回卒の長江 雅さんのピアノ、第二十回卒の大橋多美子さんのメゾ ソプラノ。  
 ●チケットのお申し込みは 大島君子

## 昭和53年度会計報告

|       |                          |        |                              |
|-------|--------------------------|--------|------------------------------|
| 総収入   | 2,291,194                | 総支出    | 1,319,128                    |
| 名簿代   | 15,500                   | 研修会費   | 624,046<br>(同窓会総会, 新人演奏会を含む) |
| 研修会費  | 616,000<br>(音楽科より印刷代を含む) | 印刷代    | 139,550                      |
| 終身会費  | 1,203,000                | 通信費    | 128,362                      |
| 同窓会費  | 98,000                   | 音楽科事務所 | 30,000                       |
| 白菊会より | 100,000                  | 慶弔費    | 342,160<br>(三宅先生御夫妻受賞記念品を含む) |
| 銀行利息  | 252,694                  | 九州支部援助 | 50,000                       |
| その他   | 6,000                    | その他    | 5,010                        |

前期繰越金 4,402,757  
 現在高 5,374,823 (昭和54年3月31日現在)

## 編集後記

今年も又会報をお届けする季節がめぐってまいりました。全国のあちこちにしっかり根をおろした卒業生の方々の活躍の様子を知りたいと思っております。コンサートに限らず、子供のための音楽教育、コーラスグループでの活動等、何でも燃えていらっしやることがあればお知らせ下さい。

(熊本美也子 十七回)